

1-6. 試運転・動作確認

以下の手順で試運転してください。動作に不具合があるときは1 - 2項, 1 - 3項に記されたボード上の設定を確認してください。それでも不明なときは本書巻末の【Q & Aフォーム】にシステム情報を御記入のうえ当社技術部までFAXしてください。迅速に応答する体制となっています。なお、TELいただく場合も客観情報の整理・評価は問題解決のスピードアップにつながりますから事前にFAXしてください。

= = 準備 = =

本ボード上の諸設定は出荷時の状態(1 - 2項, 1 - 3項)とします。

パソコン本体または拡張I/Oボックスの電源を切った状態でカバーを外し、任意の拡張(IISAバス用)I/Oスロットに本ボードを無理なく押し入れ装着します。
このとき注意することは、

パソコン本体または拡張I/Oボックスの電源を必ず切っておく。電源を入れたままで本ボードを抜き差しすることは双方の故障原因となります。

本ボードのカードエッジ(金メッキ端子)に手を触れないこと。手を触れると、(油脂成分の付着等により)接触不良の原因となることがあります。もし、触れてしまった場合はアルコール等で拭き清めてください。

イクステンダ等により本ボードをI/Oスロットから引き出した状態では誤動作を起こすこともありますから、必要以外は使用しないでください。

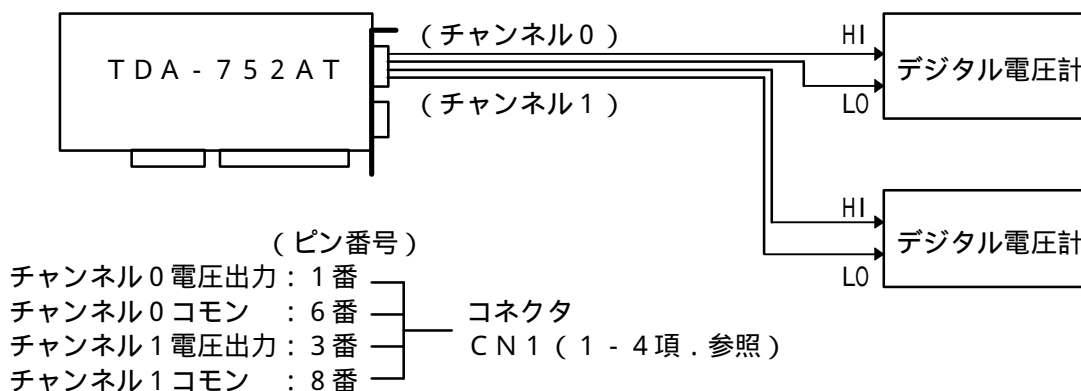
同時に使用する他のI/Oボードがあり、これに設定されているI/Oアドレスが本ボードの(出荷時)設定と重なる場合は、本ボードのI/Oベースアドレスをシステムの許す範囲で変更・設定してください。その場合は、試運転プログラムの冒頭で本ボードのI/Oベースアドレスを初期値から変更した値に設定する必要があります。【1 - 3項・参照】

なお試運転プログラムでは割り込みを使用していません。

図1 - 6のように、本ボードのDAチャンネル0, 1各出力をデジタル電圧計入力に接続します。

以上で準備完了です。電源投入順序は全機器同時、または外部機器を先にパソコン本体を最後に行います。電源切断は逆順序です。

図 1 - 6 . 動作確認用の測定機接続



== 運転 == 試運転・動作確認用プログラム “ 752QB1 ” を使用します。
 本プログラムはMS - DOS 版です。 御利用に先立ち、添付のソフトウェアをインストール (4 - 1 項) しておく必要があります。 また当プログラムのソース (Quick-Basic) も同名 (拡張子 : BAS) で添付されています。

なお、“ 752QB1 . EXE ” は日本語モードでは正常な表示ができないので、英語モードに切り替えてから “ 752QB1 . EXE ” を呼ぶ “ 752QB1 . COM ” を使用してください。

テスト・システムの電源を投入し、MS - DOS を立上げます。

試運転・動作確認用のプログラム “ 752QB1 ” を読み込み・実行します。

メニュー - から動作モードを選択、パラメータを指定して実行します。

単独更新出力 : 1 , 0 , 各チャンネルの出力データ (電圧値) を指定、出力する。
 (Individual)

同期更新出力 : 操作は単独更新出力と同様だが、チャンネル0 の出力値指定直後に
 (synchronized) 両チャンネルが同時に更新出力される。

デジタル入出力 : 補助機能の4 BIT デジタル入力、または出力。
 (digital I/O)

強制0 v 出力 : 本ボードのソフトのリセットで両DAチャンネル共0 v 出力とする。
 (turn to 0v)